

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

平成 30 年 10 月 30 日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会 長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 人間・環境学研究科

職 名・学 年 博士後期課程1年

氏 名 林 孝 洋

助 成 の 種 類	平成30年度 ・ 在外研究助成		
研 究 課 題 名	両シチリア王国外交から見るガリバルディ支援の国際的展開		
受 入 機 関	イタリア共和国、カンパーニャ州、ナポリ、ナポリ・フェデリコ二世大学		
渡 航 期 間	平成 30 年 8 月 30 日 ~ 平成 30年 10 月 1日		
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	52,7000円	
	使用した助成金額	52,7000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳	渡航費	17,2680円
		宿泊費	18,8251円
		滞在費・滞在先移動費等	16,6069円
当財団の助成について	貴財団の助成によって、博士課程一年目の研究を素晴らしい形で開始できました。滞在先での資金面での心配もなく、積極的に研究に取り組むことができました。貴財団の手厚いご支援に心から感謝申し上げます。		

在外研究成果報告

京都大学大学院 人間・環境学研究所
博士後期課程 1年 林 孝洋

○研究目的

イタリア諸地域における政治・経済・文化の再興運動と評されるリソルジメント運動は、国家統一運動としての一国史的な視点のみならず、多くの地域に影響を与えた事象としてトランスナショナルな視点から再評価する必要性が認識されている。

しかしながら、リソルジメント期イタリアの歴史は、そのトランスナショナルな性質についての認識はあるものの、依然として一国史の範疇で語られる傾向にある。トランスナショナルな視点からのリソルジメント研究は大いに発展の余地がある。

一国史的な理解の相対化のために、報告者は、特にジュセッペ・ガリバルディに対して世界中から集められた寄付について研究してきた。ガリバルディは、イタリア国家統一運動の最終局面で、両シチリア王国に対して軍事遠征を行った人物として著名である。ガリバルディ率いる「千人隊」は義勇軍部隊であったため、政府からの公的な資金提供を得られなかった。それゆえ、彼の軍事活動を支えたのは、環大西洋地域で行われたガリバルディに対する寄付収集活動であった。

南北戦争直前のアメリカ合衆国において、ガリバルディの遠征は北部自由都市の奴隷解放思想と大きな自由主義の流れの中で結びつき、多額の寄付へとつながった。そのためアメリカ合衆国での寄付収集活動を対象に研究を進めることとした。先行研究ではこの思想的共感こそが合衆国でのガリバルディ支援を展開させたとしている。

アメリカ合衆国でのガリバルディ支援活動は、イタリア系亡命者がガリバルディ支援団体を設立し、寄付金を収集する方法が主であった。先行研究では大きな思想的共感の結果の一事例として寄付の存在や寄付金の総額を指摘するにとどまっている。しかし、自由主義の価値といった普遍的な理念のみで人々は動いたのだろうか。合衆国の人々に対して直接的に行われた日常的な支援団体の活動こそが、ガリバルディ支援に対する合衆国の人々の共感を呼んだのではないだろうか。そのため本研究では、いまだ明らかにされていないガリバルディ支援団体の日常的実践を分析し、団体の日常的な草の根運動が合衆国でのガリバルディ支援にリアリティを与え、ガリバルディ支援活動を展開させたことを明らかにすることを課題とした。

報告者はこれまでの研究で、ニューヨークのガリバルディ支援団体「イタリア人委員会 Società Italiana」の活動を分析し、新聞を用いた広報活動、文化興行や多民族亡命者団体との協力による寄付の広範囲に及ぶ展開を示した。しかし、「イタリア人委員会」や賛同者側の史料に依拠して分析を行ったため、一面的な理解にとどまった。そこで、ガリバルディの遠征を被った敵国である両シチリア王国の在米大使の目線から、合衆国でのガリバルディ支援を考察することを目的とした。

○研究成果

本助成事業の成果を以下に報告する。

1) ナポリ国立文書館 Archivio di Stato di Napoli での史料調査

9月30日から10月1日にかけて、ナポリ国立文書館での史料調査を行った。本在外研

究で調査した史料は Ministero degli Affari Esteri 1734 - 1875 内の Busta3, Busta2415, Busta5296, Busta5297 である。

これらすべては 1858-1860 年の在合衆国ナポリ大使と本国との間で交わされた外交文書である。同史料群の中に「イタリア人委員会」に関する多くの報告書を発見した。これら史料を用い研究を進めることで、両シチリア王国大使から見たガリバルディ支援活動の様相が明らかになるだろう。それにより、合衆国でのガリバルディ支援の一面的理解を修正できる。

2) ナポリ・フェデリコ二世大学マルコ・メリッジ主任教授との交流

本在外研究のもう一つの目的であった現地研究者との交流に関して、以下の通り報告する。

まず、9月4日にナポリ・フェデリコ二世大学人文学部に赴き、マルコ・メリッジ主任教授と事前に送った研究計画をもとに本在外研究の打ち合わせ及び研究についての議論を行った。以後週二回程度文書館での作業を同じくし、適宜指導をいただいた。

また、報告者の研究に関する本をいくつか贈呈いただき、研究者の紹介もしていただいた。今回の在外研究で報告者の今後の研究活動にとって非常に重要な人間関係を構築することができた。

本研究では研究上の多くの成果を得、今後の研究活動にとって非常に有意義な在外研究となった。ひとえに貴財団の助成によるものである。この場を借りて厚く御礼申し上げたい。今後、今回取得した史料をもとに研究論文の執筆を行いたい。